

2018年9月28日付  
日刊産業新聞

広島県鉄構工業会など

# 鋼構造セミナーに80人

クレーンガーダー技術継承課題

広島県鉄構工業会（理事長＝山本泰徳・ステントス社長）と日本建築学会中国支部、日本建築構造技術者協会中国支部は22日、広島工業大学（広島市）で第12回鋼構造セミナーを開催、フアブリケーターや設計事務所など約80人が参加した。テーマは「クレーンガーダーの納まりを考える」で、合理的な構造設計や建築物の施工につなげ技術継承を行う

セミナーの様子



のが狙い。  
講師は佐藤大・ステントス製造部課長と島

ンガーダーの納まりが記載された専門書を参考にしているが、趣旨

田泰実・島田鉄工所社長、近松英樹・日本建築構造技術者協会中国支部技術委員長、清水斉・広島工業大学建築工学科教授が務めた。

を詳しく説明しているものは少ない。高度経済成長期にクレーンガーダー付きの建物が作られ、老朽化により更新の時期を迎えている。当時の技術者は高齢となり、引退している場合も多い。現在の設計者は技術の伝承がないまま、新たなクレーンガーダーの設計を求められている。当時の技術者も交えて、さまざまな意見交換が行われた。今後議論を重ねて、過去の経験談などをまとめていく。